矢部川源流・杣の里の四季④
ベニドウダン（ツツジ科）の紅葉

杣の里が最も輝くのは秋の紅葉の時期（10月下旬～11月中旬）である。写真は11月上旬、釈迦岳（1230m）の頂上から御前岳（1209m）方向のブナ林（自然林）を撮影したものである。御前岳左後方のふたこぶ山の右（高い方）が石割岳、左が平野岳、その後方雲海付近が八女市街である。

ブナ林の紅葉で最も美しいのがベニドウダン（写真左下）である。ベニドウダンの名前の由来は赤い花が咲くからである（右下円内・5月）。その他ウリハダケデ、コミネカエデ、コハウチワケデ、シラキ等も真っ赤に紅葉する。ブナ、ミズナラ（写真中央下）、シロモジは黄色に黄葉する。紅葉は10月下旬釈迦岳の山頂から始まり日を追う毎に下におりてゆき、11月中旬には日向神ダム付近までおりてくる。ブナ林の日々紅葉が進む光景は圧巻である。

呟き　すずかけの樹

少し若い世代ならプラタナスと呼ぶだろう。街路樹として美しい並木道を演出してくれるプラタナス。晩秋、長い柄の先に丸い果実を付けることから〈すずかけの樹〉と呼ばれる。春には淡い黄緑色の花をつけ、夏にはカエデに似た大きな葉をみずみずしく輝かせ、秋には結実し、冬にはものの見事に葉を落とす。四季折々に見せるその立ち姿に、私は一人の女性を思い出す。大好きだったその人を。

もうすぐ、一周忌が来る。だが、未だ遺骨は家族のもとへ戻っていない。彼女は生前、献体を申し出ていた。大学病院で大切に保管され、彼女の遺志そのままに医学研究の役に立っていることだろう。生きることに懸命で、一途で、永年病と闘い続けた彼女らしい決断だ。最期まで命を使い切り、生き抜いた証のように今、清々しい秋風が吹いている。

彼女の意志を尊重し、受け容れてくれた家族の胸中は、察するに余りある。しかし「臓器移植」が死後も自分が生き続けるという、ひとつのかたちなら「献体」もまた、自分をこの世に遺すことではないか。死に近き彼女が「見えんでも、ちゃんと居るよ」と言ってくれた。

魂はすずかけの樹にとどまれよ献体選べるあなたのたましひ　蓉子

街かど gallery

湖畔　F15

八女市納楚
牛島　静香

退職後の趣味は水墨に出合って今日に至っています。水彩もよいけど水墨の白黒の画風が私は大好きです。

今迄はお手本を参考にして描いていましたが最近は実物をよく観察しておくことの大切さを感じています。それと光と陰、明と暗、遠近等の表現のむづかしさ、その為の墨のつけ方、濃淡、にじみ、かすれ、筆の動かし方に悩みながら先生の良き指導のもと少しづついろんな技法を学んでいるところです。

水墨画は風景が一番似合っていて好きですが、これからは片寄らず花鳥、動物、人物等にも取り組んでいきたいと思っています。

現在いくつかの趣味をもっていますが、何といっても同じ趣味仲間と楽しく交流、会話できることがこれから先の人生にとって安らぎ（幸せ）であり大切なことだと実感しています。

みどりの杜（もり）病院を訪ねて

院　長
中原　功

Q　バルビゾン通りを走るたびにユニークな外観とみどりの杜病院というネーミングに一体どんな所だろうと関心を持っていました。今日初めて見学させていただきました。

A　5月に開院しました、公立八女総合病院企業団　みどりの杜病院です。完全独立型のホスピス緩和ケア病院です。

みどりの杜病院は「私たちは、あなたと家族が、今というときを自分らしく生きることに寄り添います」を理念としています。また、シンボルマークは、八女の特産の茶葉をモチーフとしており、その二つの寄り添う葉は患者さまと病院を表現しています。

Q　ホスピスという言葉は時々耳にします。がんの末期患者が最後を過ごす所というイメージがありますが、みどりの杜病院にはどのような特徴があるのでしょうか。

A　当院では、主にがんの患者さまの痛みや、身体や心のつらさといったさまざまな苦痛を緩和し、少しでも多くのがん患者さまとその家族の方々が穏やかな毎日を過ごしていただけるようお手伝いします。

また、痛みのコントロールのための短期入院や、家族の休息のために患者さまを一時お預かりするレスパイトケア目的の入院もお受けいたしております。

Q　一般的な病院のイメージと違って、みどりの杜病院は木をふんだんに使ってあり、アットホームな雰囲気で非常に落ち着きを感じました。

A　当院の建物は木造平屋建て（一部RC造）で、福岡県森林整備加速化・林業再生事業による助成を受けています。病院としては珍しい木造構造になっていますので、あたたかで温もりのある病院になっています。病室は全室個室ですのでゆっくりお過ごしいただけますし、各部屋から庭園を眺めながら四季の移ろいを感じることもできます。全国的にみて緩和ケアを提供する施設は病院内病棟型が多いのですが、当院は療養環境を重視した完全独立型の施設となっています。

Q　八女は自然災害も少なく住みやすい所ですが、身近にこのような医療施設ができることは本当に心強いですね。八女の魅力も高まります。

A　当院は、八女筑後医療圏内初の独立型緩和ケア病院となっています。スタッフ一同、地域の皆様とのふれあいを大切にしながら、この地域の緩和医療に貢献できるよう精一杯努力してまいりますのでよろしくお願いいたします。なお、当院では一緒に働いていただけるボランティアスタッフを随時募集しております。興味がある方はぜひご連絡ください。

八女市立野362-1
☎0943-23-0002

楽しい仲間たち
広川少年野球クラブ
監督　馬場智嗣

「こんにちは！」の大きな声でお迎えするのは、広川町竜光寺公園野球場で練習する「広川少年野球クラブ」です。創部30年を越える伝統あるチームです。

チームポリシーは「日本一挨拶が出来、大きな声で返事が出来、最後まで諦めないチーム」です。試合では「笑顔でプレー」を合言葉に取り組んでいます。現在31名の部員達が、甲子園球児、プロ野球選手、メジャーリーガーになるという大きな夢を叶える為に日々練習に励んでいます。球場周りの清掃、お花見会、熊本への遠征、そうめん流し等の行事も行っています。練習日は、火、水、金、土、日、祝です。体験入部も随時受け付けていますので、是非一度グラウンドへお越し下さい。僕達が待っています！